

# 色弱(色覚異常)

色弱(色覚異常)とは、色の見え方や感じ方が、色弱(色覚異常)のない人たちと異なっている状態をいいます。人の目の網膜には、赤、緑、青を感じ取る視物質があり、これらの働きによって色を認識しています。しかし、色弱(色覚異常)の人はこの視物質が欠けていたり、十分な働きをしていません。そのため、特定の色の区別が難しかったり、文字や情報を見落としたりしてしまうことがあります。

## 困っていることを理解しましょう

色弱(色覚異常)の人が区別することが難しい色の組み合わせを知ってください。代表的なものは緑と赤です。緑色の黒板に赤色のチョークで文字が書かれている場合には、文字が書いてあることにすら気が付かない人もいます。

## 区別しにくい色の組み合わせ例

緑と赤

緑と赤

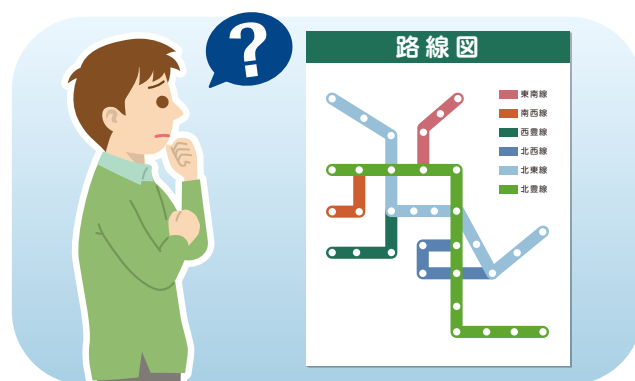
黒と赤

黒と赤

灰色とピンク

灰色とピンク

色弱の人は、色で区別されている路線図を見ても自分がどの線に乗ればよいのかが分からず、戸惑うことがあります。



## こんなことに配慮しましょう

色弱(色覚異常)の人は、日本では男性の20人に1人(5%)、女性の500人に1人(0.2%)、日本全体では320万人以上いるとされています。これらの人は、一部の色の組み合わせについて色の感じ方が異なるため、日頃から区別しにくい色の組み合わせを避けるように心がけましょう。

音声コード

